

松前志

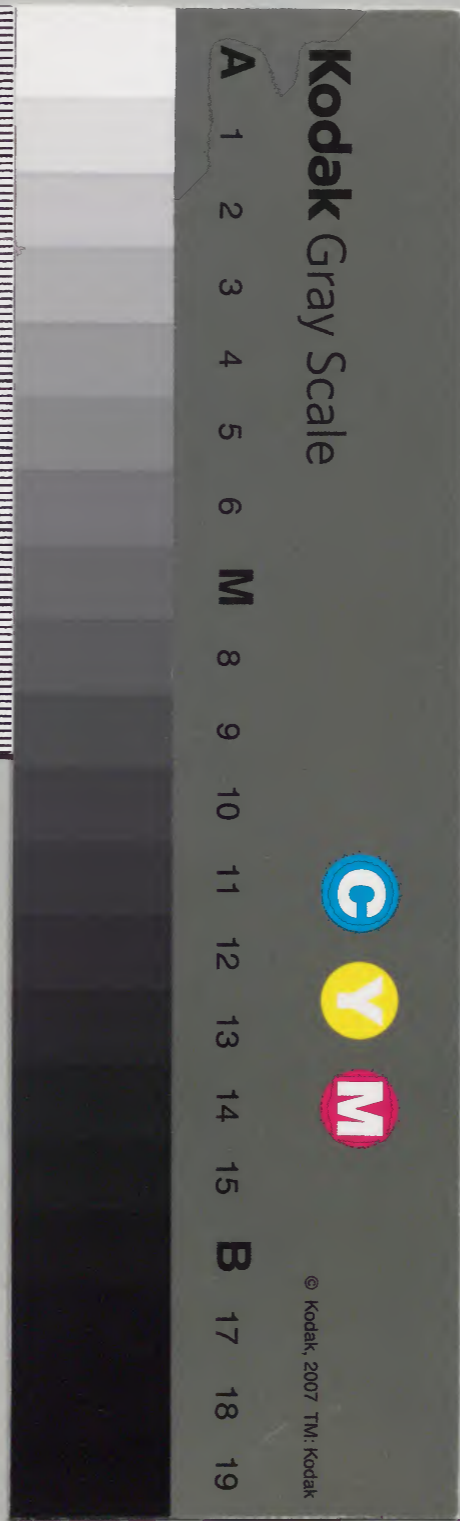
卷之八九

農務省
圖書
第 一 號
共 一 冊

太政官文庫
和書門
一三三四號
函架冊

內閣文庫
和書
一三三四號
函架冊

內閣文庫	
番號	和 11374
冊數	10 (9)
函號	178 105



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

松前志卷之八

藥品部

熊膽

松前同宗源廣長者

夫松前ノ熊ハ猛悍多カニシテ好テ馬ヲ食ヒ

人ヲ嗜ム日本紀肅慎ノ熊トアレハ熊トスベ

境内深山幽谷此獸スマザルトコロナシ

他國ノ熊ト大ニ異ナリ故ニ其膽モ亦隨テ

性異ナルカ是東都獻品ノ一ツトス凡熊ヲ捕



ル丁四季ニ限ラズ然レ凡其膽良ナルモノハ
十月ヨリ以下早春ニ至ルマテヨ其則トス草
芽生セハ其膽気味変ズルナリ李時珍曰熊膽
佳者通明每以米粒點水中運轉如飛者良ト
此説ニ後フベシ又一説ニ取一粟許滴水中一
道若線不散者ヲ為真此説於予難從膽唯黑漆
ノ如ニメ暑月ト云ハ凡堅硬ニメ光リアルヲ
良トス方俗マレヲシヤリト云一瞰固ヨリ其
真偽ヲ鑒定スルベシ掌ハ以テ食之風寒ヲ禦

キ氣カヲ益スト云旧記ヲ按スルニ元禄七年
甲戌夏五月有 台命熊掌ヲ呈上セシト見ハ
夕リサレハ南方之蠣房北方之熊掌東方之麋
灸西域之馬妳ハ共ニ古人ノ貴重スルトコロ
其旨五雜組ニ見エタリ字書ニ蟠ノ字ヲ熊掌
トス

脰朒臍

是即海狗腎也今脰朒臍ヲ以テ脰朒獸ノ別名

トスルモノハ誤ナリ百人曰温肺外腎陰乾百
 日味耳香羨也ト夷人モ亦其生ヲ吸ヒ食フ羨
 味云ヘカラズト云フ本草曰其性補中益腎氣
 暖腰膝助陽氣破癥血療驚狂癩痰又時珍曰以
 渙椒樟腦同收則不壞誠然海狗膽是亦夷人好
 テ其生ヲ吸食フ積聚ニ驗シアリト云フ未試
 効又旧記ヲ按スレハ享保十六年復五月東都
 ヲリ海狗膽ヲ可呈上嚴命アリシコト見ヘタリ
 詳ナル下ハ見干禽獸部

人蔘

松前竹節人蔘アリ未視有蔓種或云一種島人
 参ト云モノアルト是亦未詳其真偽享保二十
 年江府ヨリ朝鮮人参ノ苗ヲ給ハリケレト其
 根絶タリ北海隨筆一名松前 松前千軒嶽漢種
 ノ人蔘アリト云ヘリ 千軒嶽トハ方倍ノ訛り傳ヘ
 へリ嶽金嶽ノ麓ヲ千軒ト云フ 如何アランヤ又西
 詳ナル下ハ地理部ニ見エタリ 部ヒラタナイト云處ニ人蔘ニタカワヌ草ア

リトモ傳云へり是又未詳然否北海隨筆書中
ニ誤謬甚多シ意フニ彼書江戸坂倉源次郎ナ
ルモノ筆記ナルヘシ日記ヲ按スルニ元文元
年丙辰冬十月江戸坂倉源次郎ト云モノ松前
地圖ヲ画キ官ニ訶ケルハ松前地圖中白色ノ
處志州ノ領内ニテ黄色ノ處ハ其領ニアラサ
ルヨシナリ於爰江府親族ヲ召シ吟味ノ事アリ
然レモ彼一圖ト境内ノ地内ノ地圖ト相違
ノ旨アルニ依テ其事故ナリスミタリ同二年

丁巳復四月坂倉金座後藤庄三郎カ手代トシ
テ金鑿ヲ職トシ辱モ奉ニ 台命我藩ニ到着セ
シカ其甲斐ナリ翌年秋九月空ク帰帆セリ故ニ
同四年於江府波一草子ヲ著シ其姓名ヲ誌サ
スシテ其書ヲ世ニ弘メシモノナリ明察ノ人
自カウ其作意考ベシ

附子

方倍是ヲ例スト云フ是即附子ノ通音不可ナ

ラス夷人は是ヲ「シユルグ」ト云思接スルニ我藩
附子ニ三品アリ共ニ皆野生スル処即チ艸島
ナラン其一ハ北部カラト島附子也其莖微シ
ク蔓延セルモノナリ其葉ハ丸ク和倍ノ所謂
猫足草ノ葉ニ相似タリト云フ花色未詳夷人
其汁ヲ製シテ射罔トス此一種松前地方ニ在
コトナシ松前地方ハ福山ノ地ヨリ北方ハソウヤ
水ノ隔アレハ共ニ又カラト島ハソウヤヨリ一帯
封疆ノ内ナリ疑クハ是一種ノ毒艸ナラン
カ諸本草ノ書ニモ此附子アルコトヲ未見記

メ以テ哲者ノ批判ヲ待ントス又其二ハ松前
地方ノ附子也花色紫碧ニメ微シク淡紅ノ帯
タリ其莖枯燥ノ短迫其葉割缺深長ニ是其性
気鋒銳ナレハナリ夷人採レ之ヲ毒箭ノ用トス
又其三ハ花色紫碧ニメ其莖長高キ葉割缺淺
短也夷人不用レ之是予カ関ケルトコロヲ以テ
竊ニ記スルノニ是他人ニ示スノ正説ニ非ス
此稿ヲミルモノ用捨アルヘキナリサレハ平
安暨人香川生所著茶選中附子ヲ辨正セル処

旨アリ然レ凡其撰修ノ條ニ日本諸山附子至
多而人識者稀ナリト日本諸山附子至テ多カ
ラハ奚識者ノ稀ナルベキノ理アラシキヤ是疑
クハ延喜式ナントニ據レルニヤ延喜式ノ附
子ハ白附子ナルヘシト云説アリ夷人附子ヲ
採ルニ晩秋已下ヲ以テス本草武備志ナトノ
説モ亦然リ蓋附子毒氣春復ハ其葉ニアリ秋
冬ハ其根ニアリト云フ是方倍ノ説ナリ未試
其真偽夷人撰之ヲ其子根ヲ咬テ應ナキモノ

ハ埋之ラ忘アレバ其汁膏ヲ製シテ射罔トス又
自ラ其製藥ヲ舌上ニ置テ試之毒氣淡薄ナル
モノモ亦埋之ヲ唯其藥氣猛烈ナルモノヲ以
テ毒箭ノ用トス武備志弩箭毒藥方ト大異ア
リ夷人河中ノ一奇物ヲ加味ノ秘藥トス予カ
所聞ノ方ハ世人ノ所謂加味方トハ異ナルナ
リナレハ我藩ノ獨白艸ハ他國産ト其性異ナ
ルニヤ大毒アルコト土蜀道錦州ノ産ニモ劣
ルマシキカサラバ此等ノ苗ヲ家園ニ植クヲ

ニハ永ク國家ノ益タルヘシ其良ナルモノ
ハ毒箭一發猛獸即倒ル夷人若シ過テ毒箭ニ
中ルトキハ忽チ帯ルトコロノ腰カヲ以テ其
毒氣アルノ肉ヲ断去ル避キトキハ不治尤其
穴所ニヨレリ又痲口ニ傳ル藥アリ外ニ服藥
アルユトナシ 夷方熊麋ノ通路スルトヨモ機巧ノ毒箭ヲ
カケヲキ獲レ之ナリ是ヲアマイホト云フ蓋シ
其例ニ察シルレ ヲ建ヲクナリ 武備志毒箭ニ中レルヲ治スル方
アリ笋根藍葉紫檀石灰ノ類ヲ以テ解下恐リ
ハ夷狄射罔ノ毒ヲ解スベカテズ尤火急即時

ノ用藥ニ備ガタカルベキカ宝曆壬午ノ歲西
部江差順正寺ナル寺ニ法會ノ事アリシカ供
膳ノ具ニ獨活芽ヲ入ントテ過テ鳥頭芽ヲ入
レタリシカ食之者即死二人アリ翌日ニ至ル
マテ大熱如火シテ死スルモノ又二人アリ是
ハ鳥頭汁ノ入タル醋ヲ飲タル者ナリ又宝曆
申江戸ヨリ一鑿人一魚ナルモノ来リシカ好
テ款ヲ食フ其僕亦過テ鳥頭芽ヲ未曾ニ和メ
與フ鑿人忽チ即死セリ其大毒畏ルヘキナリ

此ニヨツテ考ルニ我カ藩附子療病全軀ヲ運
スノ奇功瞑眩却テ其度ヲ過クベキカ其實ハ
暨人試効スルモノ少ナルガ故ナリ平賀――
國倫ナルモノ、物類品隲ト題セル書ニ享保
中阿部將翁奉台命到テ蝦夷得附子是本藩旧
記中享保十二年丁未夏六月採藥師阿部友之
進到着スト云ニ相應シタリ是等ニヨツテ考
レハ則異國ノ附子ト日本ノ附子ト我藩ノ附
子ト其性変異アリテ一定ナルベカラスサレ

ハ物各其風エニヨツテ異ナルトコロアリ附
子亦固ヨリ然リ况ヤ天地ノ廣大ナル萬物ノ
多端ナル何ソ人智ヲ以テ悉ク窮盡スベキ鳴
呼物産者流ノ一葉一花ノ形状ヲ辨論シ竊ニ
トメ依倣スルノ域効ハンヤ學者須ク活眼ヲ
以テ貫通スベシ

エブリコ

舟重曰南部方言トボシ
出羽方言トヲボシ

方倍是ヲ夷松ノ耳ナリト云ヘリ是即チ唐檜

木耳也伏苓ニ比スベシ蓋シ朽木ヨリ生ス本
名未詳和漢ニ才罔繪惠布里古一名天礼面低
古蝦夷北畠カラフト島ノ産ニメ生于沙濱中
云ハ誤リナリ平賀國倫カ物類品隲ニエブリ
コ五葉ニ生スル芝也ト是亦非ナリ五葉松ハ
他國ニモ多シ然ルニ未タエフリコヲ生セル
コトヲ罔カズ此物性熱大毒ヲ解ス夷人ハ發
散ノ劑トナスト云血熱ノ眼疾ニ此物ニ石菖
根ト茶ヲ加味シ煎之童湯ヲ以アタメ目ヲ

洗フニ驗アリ牛馬ノ腹痛或ハ解毒藥トシ甚
妙ナリ金瘡ニ傳テ良シ夷人コレヲカルシト
云唐檜ヲシユグト云故ニ此物ヲシユグカル
シト云ヘリ東部夷地シコツニ多シエフリコ
トハ方俗ノ詞ナリ寛文九年 台命ニヨツテ
是ヲ呈上セシコトアリ山形八幡新善法寺僧
正曰病犬人ヲ嚼タルニハ速ニ此物ヲ用エベ
シ奇功アルニヤ

イケマ

此物本名未詳蔓艸之根也夷地深山ヨリ出ル
ヲ良トス酒毒及ヒ魚毒ヲ解ス平賀國倫ハ救
荒本艸ノ牛皮消本艸ノ白兒藿ノ類ナルベシ
ト云ヘリ又日光ニ産スルヤマカモノ此物ナ
ラント云ヘリ一説ニイケマ日本西國ヨリモ
出ルヨシ如何アラシヤ松前方言イケマ南部
方言ユサナリ本艸ヲ按ルニ白兒藿ト主治畧
相似リ凡醫療所用藥品和漢年ヲ追テ出来セ

リ況ヤ其名ノ難知物モ亦多カルベシ後世漫
リニ物悉ク本艸ニ擬セントスルモノハ所謂
是牽強傳會ナリ

葛根

一名雞齊和名クス此物キハマテ山野山厓壁
ニ生ス葉即チ海人乾棘臭ヲ束ヌルノ要具夕
リ方倍コレヲフヂト云往古ハ此物ノ皮ヲ布
トシ或喪服トシ藤衣ト名ツケシヨリ其名ノ

残タルニヤサレハ古人ノカギリアレハケフ
ヌギスツルフヂゴロモハテナキモノハナニ
ダナリケリト詠セルモ此故之貝原翁ノ説ニ
阿列ノ葛井寺ヲフヂ井寺ト云ヨシ是又フチ
ト云ヘルト同シ此物生根發散ノ劑ニメ金瘡
ヲ療シ上気嘔逆ヲ治シ胃ヲ開食ヲ下シ酒毒
ヲ解シ胸膈煩熱發狂ヲ治シ血利ヲ止メ小腸
ヲ通シ疹ハ以テ渴ヲ止メ大小便ヲ利シ或ハ
貧民ノ飢ヲ助ケ大益必用ノモノタリ方倍粘

ヲ名ツケテクヅト云葛花葛葉葛蔓俱ニ功能
アリ馬ノ飼糧ニハ此葉ニマサルモノナシ或
ハ蔓ヲ山家隱者ノ軒ニマトハセタラシニハ
古雅ナルコト云ハンカタナシ真ニ世民ヲ救
フ良艸ト云ヘル松岡曰漢土植家園而用之名
之家葛和國皆野生方書呼乾葛者葛根俗鑿誤
以乾葛為葛粉或取葛莖為乾葛俱誤也ト此説
可從乎

オクリカンキリ

是般蟹ノ種類ニメ阿蘭陀ヨリ長寄ニ来ルト
コロノ通劑オクリカンキリトハ蠻語ノ方俗
コレヲシヤリカニト云形状カニノ如クニメ
左右ニ爪アリ幽谷細流石間ニアリオクリカ
ニキリハ此物頭中ニアル平珠ナリ小便閉ニ
最妙ノ本名未詳大和本草ナトニモ載タル石
蟹ノ類ナランカ亦海石ニ石蟹アリ混スベカ
ラズ此物ノ黄腸ハ鷹鷲ノ内藥タリ其旨詳于

飛鷹録又見干莫乃部

劉寄奴

一名金寄奴破血下血止痛金瘡血又下脂良菜
ナリ右本草説ナリ山野園中共ニ生ス其葉析
ニ似タリ晚復黄花ヲ開ク小菊ノ如シ本草濕
草ノ部ニ今白花トス和名オトギリ艸ト云ヘ
リ画具ノ胭脂ハ此草汁ニト云フ胭脂モ亦ヨ
ク血ヲ止ム鷹家傳アリテ此ヲ秘菜トス身切

草ノ字ヲカケリ鷹鷲モシ惡餌ヲ食ヒ危急ニ
セマリ難治タルニハ龍腦人漫大黃等ノ良薬
ヲ加減シアトフレ凡右ノ薬カモ亦救難キニ
至テハ此物ノ生汁一味鷹口ニ灌テ切ヲ得ル
コトアリ故ニ鷹犬ノ如キ熱物ニハ必用ノ良
薬トス貝原氏カ説ニモ其旨見エタリ大和本
草廣倭本艸ノ二書ニ此物ノ説詳也直海カ説
微ク勝レルニ似タリ

萎蕤

他國ノ産ニ異ナラス黄精ニ相似タリ一名ヲ
女萎

菝葜

同右此物土茯苓ト性味相似タルモノニヤ世
醫代茶トス菝葜ノ一名ヲ白菝葜ト云モ此謂
ナランカ見テ下

牽牛子

花實共ニ他國ノモノニ異ナラス一名黒丑或
名草金鈴或云牽牛子ヲ懷中ニスレハ虱ヲ生
セズト是方倍ノ説ナリ

卷柏

國倍イワヒバト云フ癥瘕月閉ヲ治ス一名萬
歳他産ノモノニ不異

淫羊藿

他國ニテ碇草ト云一名剛前或ハ仙靈脾

豨薟

一名希仙又虎膏和名メナモミ若水ノ説貝原氏大
和本草ニハ和名ヲナモミト記セリ此物亦他
國ノ産ニ不異

覆盆子

一名烏蘆子和或ハ西國艸ト云是即チ今云フ
イ子ゴナリ

黄蘆

即黄柏方俗ミコノヘト云フ草不異他國産蘆
皮ハ和倍ノ云キリダナリ此物能ク勞熱ヲ解
スヨシ松岡氏云ヘリ又毛邊紙ヲ深ルニ能美
色ヲ癸ス黄唐紙ハ此汁ニテ製ス又鄙事記ニ
此物ノ煎汁ヲ糊ニ加レハ虫ヲ生セズト云ヘリ

又遯斎閑覽ニ古人寫書皆用黄紙以蘆涂之所
以辟蠹故曰黄卷是ニ據レルナリ見ニ干事文類
聚儒學部

黄連

舟重云今唐舶多買和黄連可證

此物東部オシヤマシベトシツ山中名マスナ
イト云所ニアリト云フ如何アラシヤ其葉芥ニ
似タリ蓋シ和黄連ハ中土ノ産ニモ勝レルヨ
シ如何アラシヤ

浮石

國倍輕石ト云海邊ノ河原ニアリ潮ノ沫細沙
ニ交リテ石トナリタル者ト云按ルニ潮沫
ノコリタルナリ故ニ本名ヲ海石トモ云ニヤ
或ハ水花ト云リ

蔓椒

一名猪椒和倍犬山椒ト云ヘリ

香附子

此物西部キヨベニアリト云未詳其真偽上代
ハ此物藥品ニ入サルヨシ貝原益軒翁云ヘリ

牛膝

此物福山近辺ニアリ一名牛莖又百倍ト云フ
雌雄ノ二種アリ雄大莖紫根長メ柔潤有切通
利ノ劑タリ

合歡皮

和倍子ムキノ皮ト云フ此樹素ヨリ他國ノ産
ト不異古人合歡蠲_レ忿_レト云ヘハ良木之詳ナ
ル_レハ見テ樹木部

菟絲子

一名菟縷子ナシカツラノ實ナリ他國ノ産ニ
不_レ異

牛蒡子

即大カ子

地骨皮

即枸杞根皮

鹿茸

和倍袋角ト云フ夷地山中舊ヨリ多シ鹿油亦

國産品タリ角石ハ即チ鹿角霜ナリ

五加皮

和名ウエギ他産ト同シ和名鈔五加ニ作ル載
テ又見テ樹木部

絲瓜

和名ヘチマト云フ

麻黄

一名龍沙或名卑鹽或人云フ此物此方アリ未
詳然否

胡桃子

他産ト不異出テ樹木部

芦根

即蘆根

蓮實

他國ノ産ト異ナラス是尤石蓮子ニ非ス混ス
ルコトアリ

菡

春二月ニ至テ臺ヲ生ス國倍フキノトウト云フ
此物他國ノ産ニクヲブレバ其気香甚タサカ
ンナリ山野辺尤多シ一名菡奚又云顛凍見野

菜部今字菡ヲ按スルニ菡字アタレリ大和本
草ニ菡冬花ヲ以テ久嗽ヲ治スルコト見ヘタ
リ是本草ノ説ナリ

天南星

時珍云小者ヲ為由跋即チ一種也益軒云山中
天南星ニ似テ小ナルモノアリ是由跋ナルベ
シト松前産モ亦由跋ナランカ天南星一名虎
掌方俗ハビリイハチト云フ或云此物葯葯ニ

制スベシト如何アラシヤ方倍コレヲカブラ
ブスト云モノアリト云ヘリイマタ其實各ヲ
不知

露蜂房

即チカバチノ巢

赤小豆

五八霜

即チ蝮蛇霜是鷹茶トスルコトアリ

蘿蔔子

一名菜服子和名ヲホ子即チ大根之是等ノ品
種他産ト無大異出干菜艸部

紫胡

一名芸蒿或云紫胡蘘倉産ニ勝レリ

桑根白皮

桑樹載テ在別卷

鮭魚

和名ムマアブト云フ方言又同

乾漆

漆樹載在干別部此物ヨク殺魚

山漆

即チ三七根

大麥

一名牟麥穀類ノ部ニ出レ之ヲ

半隻

一名守田和名ホソクミ和俗或云烏枸本藩舊

ヨリ産ス

山蛤

即チ和名ニ赤カエル

山椒

他産ニ不_レ異

合歡木霜

見_ニ于上霜即黒ヤキ殺_ス也

艾

ナリ
又有艾實字彙ニ艾牛蓋切音礪草名可灸病是

久蝨

四種アリ蓋是蝗ノ種類

蒼耳子

一名蒼耳或人云フ和俗コレヲオナモモト云ト
貝原益軒翁稀蒼ヲオナモミト見テ上

辣茄

方言他國ノ称ト異ナラス或ハコレヲナンバ
ト云フ是亦即方言也他國ノ産ニクラフレバ
気味甚タ猛烈ナリ夷人コレヲ射岡ノ加味ト
スト然レバ未詳其實否

防風

此性他國ノ産ニ勝レリト云フ別ニ濱防風ア
リ菜品ニ非ス出テ野菜部其ノ莖珊瑚ノ如シ

皂莢

一名烏犀和名サイカシ鷹家画家共ニ傳アリ
テコレヲ用エルコトアリ此物性關節ヲ通シ連
滯ヲ疎導シ九竅ヲ通開スルノ能アリ故ニ鷹

家必用ノモノトス

海藻

海草ナリ藻類載テ在于別卷

桂

皂角子

見于上是即其實也皂角刺ハ其刺也

忍冬

一名金銀藤或ハ云鴛鴦藤和名スヒカツラ悪
瘡久リ不愈煎服メ甚驗シアリト云フ

酸漿

和名ホ、ツキ寒中霜トシテ蝨虫ヲ殺スト云
ハリ又年久シキ喘息ノ古疾トナリタルヲ治
スト云フ試之極妙ク出テ花州部

當飯

他國ノ産ト異ナラスト云フ夷人ノ良薬トシテ産後
産前或ハ凡邪ニモ用之ト云ヘリ飯或ハ歸ニ作ル
和名ヤマセリ或ヲ、セリ又ウマセリ共ニ和
名鈔ニ見ヘタリ

茵陳蒿

和名カハラヨモキ處ニ多シ草部出之ヲ

桔梗

一名白薬他國ノ産ニ不異咽喉痛ヲ治スルノ
主薬ナリ

茅根

一名茄根チガヤ和俗ノ称ナリ

野菊

即チ苦蕒本草濕州ノ部ニ出タリ秋黄花ヲ開ク
山野ニ多シ或云緋色花ノモノナリ菜用イルヘカラ
ズ外醫所用菊膏ハ即チ苦蕒ナラン或人云此地
ノ産ハ真ノ野菊ニアラズト平安キブ子ニ此菊多
シト云ヘリ 出テ
正

菊花

種類固ヨリ多シ花草部ニ出ル

和大黄

一名將軍或黄良和産或為羊蹄和名鈔オホシ
ト訓ス一説云藥肆クヌリヤ称和大黄者真大黄也未詳
然否又醫人大冲ガ説ニ羊蹄根ヲ呼テ野大黄
トナスハ非ナリト云ク

麥門冬

一名禹韭或云不死草此物庭前三草ノ一種也

羌活

獨活ト照シ考ヘシ他國ノ産ト不異或云八條
草コレナリト又此地ノ所産ニウド、云フモ
ノ此ナリト云ヘリ載在テ
別卷一

阿芙蓉

一名阿片罌粟花ノ汁ナリ蓋ニ異國ヨリ来レ
ルモノハ製造セルモノナリ凡云ヘリ

貝母

蟲ナリ一名勒母直海ウバユリヲ此物トス香
川太冲非トスウバユリ野菜部ニ出タリ

桃仁

桃花ハ本藩ノモノ其功少シト云ヘリ是北海
風雨多ク其氣香ヲ失フ故ナルベシ

鴨油

即チ鳴ノ膏東部此禽多シ海人昆布ヲ芥モノ
必用ノ藥トス海水耳ニ入テ
痛ヲナスニ用ユ

牡丹皮

花艸部ニ見ヘタリ

芍藥

同上

澤瀉

一名水瀉又禹瀉他國ノ産ト不異

胡黃連

一説ニ是和俗ノ所謂千根ナリト未詳益軒翁
千根ハトウヤリト云フ胡黃連トスルハ非ナ
リト按スルニ真胡黃連ハ和産アルベカラズ真
海延平府志ヲ引テ千根ハ斜枝菜ト云モノ也
ト云ハリ松岡玄達カ説ニ和産一種ノ草称當

藥一名千振秋閑紫白花根細小而甚苦和俗采
充胡黃連謂其能殺蟲消積小兒初生加耳州代
用其連湯以為習俗已久謂之胡黃連和方稱胡
黃連和方稱胡黃連者皆當藥之ト云、或謂胡
黃連和名クサレグマト云モノナリト未詳

紫蘘

一名赤蘘或云桂荏紫蘇子亦菜品タリ他國ノ
産ト不異是二種アリ

紫艸

一名紫丹又苾蒻山野ニ多シ雜草部ニ出レ之ヲ

牡蠣

東部夷地アツケシ産房肉俱ニ甚長大之伊勢
ノ高峻葛阪視之絶品ナリト称歎セリ載テ又
見干貝双部

五倍子

或作五倍子

藿香

或人云松前此物ヲ生スト未詳疑是藿菜乎
青葉ト称スルモノ固ヨリ漢種ナリ

麻仁

一名大麻即チアサノミナリ

車前子

方俗マルゴバト云フ他國ノ人ヲホバコト云フ大
小二種アリ甬雅ヲ按レハ茶苜ハ馬舄ハ車前
トアリ註好生道邊即此物ナリ

蒲黄

和名カマ本名或ハ香蒲花上黄粉名蒲黄雜艸部
出之

水通

方俗アケビト云フ木通ハ即蔓之葉莖ヲ通草ト号
ス俱ニ通利ノ劑是益軒翁ノ説々然氏木通即通
草ノ稱アリ

常山

一名鷄尿管根ヲ名常山葉ヲ名蜀漆常山道中
生之故常山ノ名アリ和名クサギニ種アリ別
有標本同名異物乎和名鈔木部ニ載タリ此物

或ハウクヒスノイヒ子ト云フ

荆艾

一名假蘇

瓜蒌仁

即果羸實ノ仁ナリ又枯樓又黃瓜蓋ニ瓜蒌
根ハ即花粉ナリ

葛藟

即チ山藥和名ヤマノイモ山野自然ノモノ多シ性
氣烈シ發出ノ大力量アルト他國ノ産勝出野菜部

辛夷

和名ゴブシト云方倍ヒキサクラト云モノ是也
方俗夷人共ニ諸病ニ用ユ載テ詳ニ樹木部和
名鈔蕪夷ニヒキサクラト訓ス

藍澱

即藍汁ナリ草類部出之

紅花

或云紅藍花和名ベニハナ他國ノ産ニ異ナラ
ス出ニ于花艸部

蒲公英

方俗モ亦タンホト云フ黄白ノ二品アリ園

中自然生アリ或人此物他國ノ産ト小異アリ
ト未考然否

沙参 并ヌノバ

一名白参又羊乳稻若水コレヲト、ギトス或
云羊乳小異アリト未考方俗ヌノバト云モノ
杏葉沙参ナリト云フ是ツリガ子ニンシント云フ
秋氏好テ食レ之意ニ此物三種アラシカ

槐角子

和名エンジュ山中ニ有之槐花槐枝槐膠俱ニ藥
品詳ニ樹木部

薏苡

和名スダマト云フ古人此物藥カ和緩ノモノトス

真珠

載在干魚ノ部貝原益軒翁カ説ニ此物輕粉ト

燈心 = 同クシテ香盒 = 入オケハ久クアリテ子ヲ
生スト云ヘリ

獨活

羌活ト一類ニ物古人云獨活ハ羌活ノ母之ト
此物香氣他國産ニマサレリ太キモノ五六寸有
余長コト四五尺有余ニイタル
見于野
菜部

蒿陸

一名葦柳或云白昌他國人山ゴボウト云フ方
俗トウゴボウト云フニ種アリ俱ニ藥品トスベ
シ其色ニカ、ハルベカラズ然レ一説ニ花赤者
毒アリト云フ本藩夏五月開花水腫ノ良劑也

硫黃

東部夷地産之貨財ノ部ニ出タリ

橡實

即トチノミ見干樹木部

葶藶

方俗其根ヲトコロト云フ堀元奇ハコレヲ和國ノサンキライトス夷地真ノ土伏苓アリト云フ未詳真偽奥別ニテ葶藶ヲラニトコロト云フ倭名鈔ニ此物見ユズ

延胡索

即チ玄胡索此物此土ニアリト云是亦未詳

薰陸

山中ヨリ出^ル奥州南部ノ産ト同種類乎是亦未詳真偽

白芷

福山近邊此物ヲ生ス一名白菝又澤芥或云アマニウ此物ナルベシトノ説アリニウ雜草部ニ

著タリ

藜芦

和名ヤマウバラ 或云エビ子

百合

他國ノモノニ同シ病人食之而莫有害又見ニ于
花草部種類尤多シ

鶴蝮

コレ即チ天名精ノ實ナリ

威靈仙

和名九蓋草ト云フ此物或虎尾艸花似タリト
益軒翁云ヘリ

木賊

東部ニリウチ深山湯ノシリト云処此物ワキ

テ多シ雜艸部ニ見エタリ

射子

一名野萱花又云鳥扇

蟬蛻

方俗ヤミノヌケカラト云フ即空蟬ナリ

蝸牛

和俗カタツフリト云フヲ霜トシ諸痔瘡類ニ
傳テ可ナリト醫人之達語リキ然レ未試効云々

黄精

一名救窮草貝原氏云黄精莖青ク萎蕤莖紫也
ト世ニアマトコロト云フ即チ萎蕤之又黄精ヲナ
ルコユリト云ハ奥州ノ方言之倭名鈔ニヲホエ
シト訓シ又ヤマエミト云フ

川芎

即チ芎藭或云胡藭種之甚利潤多キモノナリ
ト云フ

益母艸

一名荒蔚又苦低草或人云是即夏枯草ナリト
和名メハジキト云ヘリ

厚朴

北倭ノ朴樹葉品ニ入ルベカラス松岡説和漢ノ
産俱ニ通用スヘシト我藩ニ種アリ一名烈木
或云赤ト見テ樹
木等部

前胡

醫書ニ北地ノ産ヲ勝レリトス然則此地ノ産
素ヨリ良シトスベシ然レ氏未詳其性

地膚子

即チ地葵子和俗ハ、キット云フ

升麻

一名周麻鑿書ニ蜀川者良トス故ニ川升麻ノ
称アリ武備志弩箭菜方ノ一味ナリ

罌粟殼

他國ノ産ニ不異

石菖根

菖類有數種然ドモ我藩ノ産入于藥品否未詳

燈心艸

或云虎鬚艸和名并出于草部

仙人艸

或人云此物夷地ニアリト未詳然否一説ニ云
和産ナシト云モノアリ人掌即是之凡云又

仙人掌ハサボテンヲ云々氏云ヘリ

石鏡乳

一名鷲管石東部夷地古金山穴ニアリ

石決明

古人鯁魚ト別物トス東部夷地可擬此物貝アリ名ツケテムイト云フ詳于奥々部

石葦

和名ヒトワハ山中石間ニ生ス霜トナシ小兒ノ頭瘡ヲ治ス和名鈔イハノカハト訓スルモノコレナルベシ

羊乳

或人云是北地釋氏ノ食ヲトコロヌノバ是ナリト沙考一名羊乳見于上

鬼臼

覃部龍ノ口ノ邊ニ此物多シ一名天白或云八角
盤柏葉ニ相似タリ高コト凡三尺許

虎杖

一名糊獮竹或班杖和名イタドリ此国方言ト
ウグイ奥而方言サストリ夷地大ナルモノ竹ノ如シ
民家籬トシ或為薪通利破血ノ劑タリ出テ
南中有無花疑ク同種ナシ乎此地ノ産モ悉ク白花
ヲ関リ枕草紙ニ出タリ

石英

東部夷地クシヌイ邊ヨリ出ツ予カ所視白石
英ノミナリ出テ貨財部



松前志卷之九 中川家本脱卷

